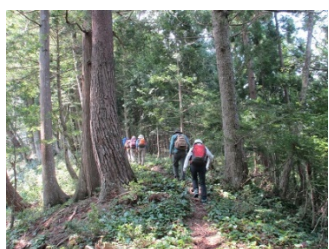


2019,8,18

# イチゴ谷山トレッキング記録

心地よい風があったものの酷暑でかなり厳しいトレッキングでした。ナツエビネのお花があちこち咲き、ミヤマウズラやイチヤクソウ、そして最後にイワタバコの花に出会い超感動。シコブチ神社は車窓観光になりました。今日も自然に感謝。出会いに感謝の一日でした。

## ◆トレッキングの様子



平良から登る



原生的な自然林



イチゴ谷山山頂到着



イチゴ谷山山頂で記念撮影



ピーク 909 へ



ピーク 909 にて、後方 武奈ヶ嶽



いくつものアップダウンに  
みなさんお疲れ気味。ファイト！



小川地区に下山

## ◆自然観察



ナツエビネ①



②



③



④



イチヤクソウ



ミヤマウズラ①



②



③



イワタバコ



ミスメの観察：匂いを確かめる サロンパスのような香りがする

## ◆歴史

シコブチ信仰と志子淵神社  
～日本遺産～

＜安曇川流域のシコブチ信仰＞  
安曇川は、滋賀県高島市をはじめ上流では大津市、京都市を含む流域を形成しており、この地域では、豊富な森林資源をもとに、いにしえより林業が主ななりわいとして営まれてきました。  
京や奈良の都に近く、水運でつながっているこの地域から伐り出される木材は、古代より都の造営などに必要とされ、東大寺の建築用材も安曇川から琵琶湖、淀川、そして木津川を経由して陸（いかだ）などで運ばれたと伝えられています。  
木材を筏で運ぶことは、特に川の険しい上流部では流れが速く、大きな岩や淵などでは危険を伴い、筏乗りにとっては命に関わる仕事でした。  
その危険な仕事の難事を願って、川の怪物を取り除いてくれるという「シコブチ神」が祀られ、安曇川流域に暮らす人々の間で信仰されてきました。  
現在でもこの流域には、数多くの「シコブチ神」を祀る社や祠、講が信仰の対象として受け継がれています。

＜奈良の志子淵神社＞  
奈良の中に、山ノ林・志子淵・十輝崎の3つの社殿が祀られています。創立年代は不明ですが、文化3年（1806）に社殿の修繕が行われたことがわかっています。  
前を流れる川は野瀬川で、そのすぐ上手の「平良谷口」は、茂液しの「下川」として使われた場所です。笹刈しが行われていた頃、周辺の山から伐り出された木は、一旦この場所に集積され、筏に組まれて川を下っていきました。



日本遺産

重要文化財  
小川の志子淵神社

神社の創立は明らかではありませんが、神社に伝わる記録等から、中世にはこの地に存在していたことが分かっています。  
段上の敷い屋内には、中央に本殿である志子淵神社、向かって左側に蔵王権現社、向かって右側に松野社が建っています。  
社殿の建築年代については、蔵王権現社の小屋組内に納められた数札から、元安4年（1377）に建立されたことが分かっています。本殿および松野社についても、同様の建築様式であることから、同時期に建てられたものと考えられます。  
本殿・蔵王権現社・松野社の形式は、一間社流見材組造で、梁間は一間、正面に礎を設け、屋根はこけら葺きで筒葺を載せています。3棟のうちでは、本殿が最も規模が大きい建築です。  
各社殿とも、郷村の風格程度から古くから古い屋に納められていたとみられ、建築当初の素材が大変よく残されています。

日本遺産 安曇川流域のシコブチ信仰

安曇川は、滋賀県高島市をはじめ上流では大津市、京都市を含む流域を形成しており、この地域では、豊富な森林資源をもとに、いにしえより林業が主ななりわいとして営まれてきました。  
京や奈良の都に近く、水運でつながっているこの地域から伐り出される木材は、古代より都の造営などに必要とされ、東大寺の建築用材も安曇川から琵琶湖、淀川、そして木津川を経由して陸（いかだ）などで運ばれたと伝えられています。  
木材を筏で運ぶことは、特に川の険しい上流部では流れが速く、大きな岩や淵などでは危険を伴い、筏乗りにとっては命に関わる仕事でした。  
その危険な仕事の難事を願って、川の怪物を取り除いてくれるという「シコブチ神」が祀られ、安曇川流域に暮らす人々の間で信仰されてきました。  
現在でもこの流域には、数多くの「シコブチ神」を祀る社や祠、講が信仰の対象として受け継がれています。